

外国語活動（Y I C A）

1 外国語活動の目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

2 外国語活動の時数と内容

1年～4年 20時間（国際理解教室を含む）

5・6年 35時間（国際理解教室を含む）

3 英語活動

3-1 ねらい

- ・外国語を通じて、言語について体験的に理解を深める(気付かせる)。
- ・外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ・外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

3-2 年間指導計画

本校独自のものを使用する。おもに事例集に沿っているが、担任が学級の実態に合わせて変更してもよい。

3-3 英語活動の運営

基本的に外国語部が立案した年間指導計画に基づいて行う。授業の内容は学年ごとに検討し、授業前週の火曜までに具体的な活動案を作成し、外国語部がそれをインタラック社に送付する。

学校から直接AETに要請をすることはできない。

3-4 指導分担型における担任の役割

○担任 T1 指導計画の立案、子どもの見取り、評価 振り返り、評価付け

○AET T2 学級担任が計画した指導案の狙いに沿ったアクティビティを行う。

3-5 授業展開

はじめ	学級担任によるウォームアップと今日の授業のねらいを子どもと共有化する。	
アクティビティ	AETが独自の時間として英語で子どもとコミュニケーション活動を行う。	学級担任は評価規準に沿った子どものコミュニケーションへの関心・意欲・態度の評価を行う。
終わり	学級担任によるコミュニケーション活動の振り返り、活動の評価づけ	

3-6 サポーター

活動の内容から、AETとのTTや担任だけの指導よりも効果的と判断した場合は、地域サポーターの活用も取り入れる。

4 国際理解教室

4-1 ねらい

- ・外国を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める(気付かせる)。
- ・多様な異文化について、「違い」を認め、共通点を見つけようとする態度を引き出す。
- ・英語がコミュニケーションの手段として有効であることに気付かせる場面を提供する。

4-2 授業展開

I U I が授業計画を立て、担任とのTTで行う。I U I の出身国の言語や文化を、英語を使って体験・理解させる。I U I と担任との打ち合わせは授業前週の中休みに行う。

5 評価

5-1 評価の観点

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
外国語への慣れ親しみ	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
言語や文化に関する気付き	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言語の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

5-2 評価の方法

- ・「関心・意欲・態度」は、英語にこだわらず、活動中の児童一人ひとりの取り組み状況を確認したり、児童が自分の活動を振り返った自己評価などを読み取ったりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を見取る。
- ・「慣れ親しみ」は、細かい文法事項など「正確さ」にこだわるのではなく、児童が実際に外国語を用いて自分のことを話して伝え、相手が外国語で話すことを聞いている姿を観察し、記録しておく。
- ・「気づき」は、自国の文化と異文化、日本語と外国語などの相違点や共通点、コミュニケーションのマナーの大切さなどに関して、質問や振り返りの時間を取るなど、児童に自分の気付きを表現できる機会を与え、その記録を蓄積する。

6 平成 27 年度の A E T および I U I

A E T ヤン・フォーグル (アメリカ)

I U I チットラカール・ディポック (ネパール)